

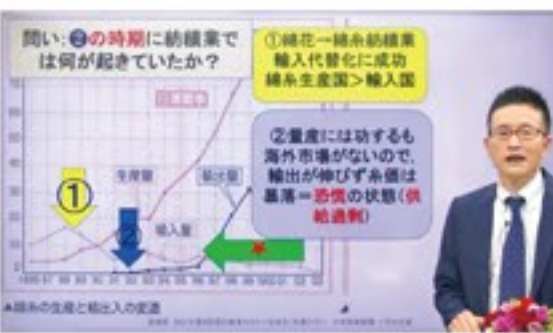
第8回 夏の教育セミナー(8月9~15日)報告

日本教育新聞社・(株)ナガセ主催

共通テスト向け 授業づくり探る

8回目を迎えた「夏の教育セミナー」(主催=日本教育新聞社、ナガセ)が8月9日からオンラインで開催された。今年1月に初めて実施された大学入学共通テストについての講演や授業づくりの発表があった。好評のため受講期間を22日まで延長して開催した。

日本史 渋谷教育学園幕張中学校・高校(千葉市) 高橋 哲 教諭



時代区分を意識した授業づくりや「問い」の作成の重要性を強調する高橋教諭

日本史担当の渋谷教育学園幕張中学校・高校の高橋哲教諭が強調したのは授業での教師の「問い」を磨き上げることだ。入試問題を分析して「問い」を用意しているという高橋教諭。共通テストだけでなく、私立大学の入試問題や国立大学の論述問題も分析の対

時代区分意識し「問い」作成

象にすることが大切だという。授業で用意する「問い」の数を精選しながら、時期区分や各期、現代的諸課題とどう結びつけるか、他の時代と対比したり推移や転換を見たりする(「トリの目」で俯瞰する)。授業をどうつくるかを模索している。授業をどうつくるかを模索している。授業をどうつくるかを模索している。

国語 中央大学附属中学校・高校(東京・小金井市) 齋藤 祐 教諭



授業を通じ世界観やまなざしを変質させ、物事を深く考える力を育む面白さを語った

中央大学附属中学校・高校の齋藤祐教諭は「学びに向かう力を育む『現代の国語』」と題して日々の授業実践を発信した。齋藤教諭は、共通テストの基礎にあるのは新学習指導要領であるとし、学校現場が大事にするべきは、授業を通じ「学びに向かう力(目には見えない・見えにくい)学

「学びに向かう力」育成が鍵

力」を育てることと明言。インドネシアから、日本語を教えている教員を同校に招いた時、生徒たちが前のめりになって話に聞き入っていた場面写真を示し、生徒がもっと知りたい「理解を深めたい」と実感できるような授業づくりの必要性を説いた。



文科省 高等教育局 大学振興課 大学入試室長 前田 幸宣 氏

基調講演

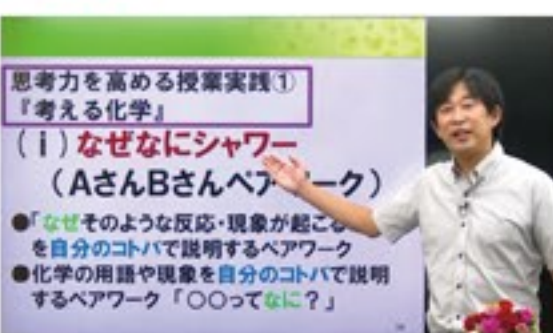
思考力重視の出題に一定評価

文科省の前田幸宣・大学入試室長は、今年1月に初めて実施された共通テストの振り返りと今後の入試の動向を、豊富な資料を基に解説した。講演後には、参加希望者から事前に寄せられた質問に答えた。転換期にある入試改革の現在地を確認できる内容となった。

現と新、両指導要領押さえる

共通テストの振り返りでは、大学入試センター試験からの変更点や、新型コロナウイルス対応で第2日程の新設科目が追加されたこと、新設科目の試験形式や試験時間の変更も紹介された。そのほか、文科

化学 茨城県立並木中等教育学校(つくば市) 吉村 大介 教諭



知識活用型の問題を解く上では、問題文をよく読むことが大切だとする吉村教諭

「暗記型よりも知識活用型の学びが求められた」。茨城県立並木中等教育学校の吉村大介教諭は、今年の共通テストの問題の印象をそう話す。

暗記より知識活用型の学び

吉村教諭は、こうした問題を解く力をつけるための指導について授業の動画を紹介しながら解説した。その一つが「なぜそのような反応や現象が起こるのか」を生徒が自分の言葉で相手に説明する「AさんBさんペアワーク」。口に出してアウトプットすることにより、自分が本当に理解できているかを明確化することができるといった。

数学 東山中学校・高校(京都市) 鶴迫 貴司 教諭



授業では、例題や練習問題、章末問題をつなぎ合わせて解説することが大切と話した

鶴迫教諭は、発表面での説明を①学校・高校教諭は、現行と新学習指導要領の内容を踏まえ、今年1月の大学入学共通テストで出題された問題や文言によって3色に分類し、領に合った形の授業実践例も紹介し、そこではベクトルの内容を中心に取上げた。

多様な文章読める教材選ぶ

東北学院中学校・高校の武田誠教諭は、使用した教材などを紹介しながら自身の授業実践を語った。最も意識しているのは、授業自体を英語だけで進めることだという武田教諭。ワークシートも英語のみで表記した。教材選びには「コラムやグラフ、ニュースなどさまざまな文

英語 東進ハイスクール・東進衛星予備校講師 武藤 一也 氏



オンライン授業では、教える内容を絞り、それに沿った計画立案が重要だという

英語では東進ハイスクール講師の武藤一也氏が講演した。冒頭、オンライン授業のポイント「重要な話ほどカメラ目線」「普段より大きな声」「適度な問い掛け」「大事なことは繰り返す」などを挙げて、今回の講演でそれを実践。目の前で話しているような臨場感が伝

リスニング「言い換え」重視

昨年度の共通テストについて「リスニングの平均点が低く、苦勞した生徒が多かったのではないかと」武藤氏。リスニングでは代名詞の指す内容を問う問題や、話者が後から分かる問題の正答率が低かった。出題内容を、一度の読み上げやスクリーンの長文化など、より実生活に即したものになったと分析した。

英語 東北学院中学校・高校(仙台市) 武田 誠 教諭



多くの教材を使うよりも、質の良い教材数点を厳選することを勧めた

リスニングの指導では、これまで授業の冒頭などに10分程度の聞き取りの時間を設けていたものの、授業の本題の内容とつながっていないことが多かった。そこで、問題を聞き(リスニング)、トピックについて生徒同士の意見交換を行い(スピーキング)、一定の分量で意見を書く(ライティング)というサイクルで1単位の授業を展開した。

入試の検討事項がよく分かる／コロナ下、勉強の場に

【基調講演】大学入試の検討事項の変遷が分かりやすく説明されていた。調査書の書式や移行措置などに関してもよく分かった(兵庫県立・男性) 【英語】授業で使うハンアウトなど具体例を惜しげなく示していただ

受講者の声

き、かつその意図がはっきり分かったのが良かった。自分の中に落とし込めた(宮城県立・女性) 【数学】コロナ禍で情報交換する機会がほとんどないので、今回のセミナーは大変勉強になった(奈良県立・男性) 【英語】毎回のリフレク

次回WEBセミナーは9月18~26日開催 テーマは「新指導要領と観点別評価」



安河内哲也・東進ハイスクール・東進衛星予備校講師 石田有記・文科省教育課程課教育課程企画室長

石田・教育課程企画室長が講演 2回目をウェブ方式での開催となった今年の「夏の教育セミナー」は9月18日から、テーマを変えて後編を開催します。テーマは、来年度から高校で始まる「新学習指導要領と観点別学習状況の評価」です。